島上南組だより

浄土真宗本願寺派
2022年(令和4年)1月
第15号
編集・発行
高槻市野田正覚寺内
島上南組実践運動委員会

組長ごあいさつ

島上南組組長　本田一成

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆さまお変わりありませんでしょうか。新型コロナウイルス感染症が日本で確認されてから既に約2年が経ちました。今のところ新規感染者数は減少しているものの、新たな変異株の拡大や第6波が懸念されており、まだ先が見通せない状況が続いています。

いまだにコロナで大変な思いをされている方も沢山おられることと思います。安心して日常生活を送れるようになるにはまだしばらく時間がかかりそうです。

先日新聞で子どもの不登校問題の記事に目がとまりました。これまでも不登校の問題はありましたが、特にコロナ感染拡大による一昨年の一斉休校明けから不登校の子どもが増えたということです。そういえば授業が始まっている時間帯に学校の近くを親子が歩いている姿を時々見かけることがあります。ひょっとしたらその親子も不登校の問題を抱えているのだろうかと思ってしまいます。

学校に仲の良い友達がいないわけでもなく、いじめられているわけでもない。それなのに、学校に行きたくても行けない。無理に登校しようとすると頭痛や吐き気がする。自分自身でも不登校になった原因が分からないのだといいます。せっかく一生懸命に勉強して入った学校が、いきなり入学式後から休校となり、望んでいた学校生活を送ることができず、そのうち不登校となってしまい結局退学した生徒もいるのだとか。希望を胸に入学したはずの学校を退学せざるを得なかった生徒の気持ちを思うといたたまれない気持ちになります。一斉休校によって、友達との何気ない関わりや学校生活のこれまで当たり前だった姿が突然失われたことにより、知らないうちにストレスがたまり、子どもたちの心の負担となったのでしょうか。コロナ禍が私たちの生活に与えた影響の大きさを改めて感じます。

さて、現在、宗門では実践運動の名のもと、子どもの貧困問題に取り組んでいます。島上南組では「お寺を貧困問題を抱える子どもたちの居場所に」を達成目標に、この運動を推進していくこととなっています。（ただし、コロナの為、実践運動について皆さんと十分な議論や周知もできていないばかりかまだ何も具体的な活動ができていないのですが。）

貧困問題を抱える家庭は地域や社会から孤立してしまいがちだといいます。もともとこの達成目標は、お寺が貧困問題を抱える家庭の子どもたちの居場所となることにより、地域や社会との・がりを保つ役割を担うことができるのではないかとの思いもあり策定したものです。しかしながら、孤立という点で見れば不登校になった子どもも、貧困問題を抱える家庭の子どもと同様に、その多くが孤独感を抱き誰にも頼れずにいるということです。

自分の居場所があってこそ私たちは安心して生きていくことができるのだと思います。孤独感を抱く子どもたちに必要なのはその居場所ではないかと思うのです。昔は子ども会やその他の行事でよくお寺に行って遊んだという声を聞きます。お寺は子どもたちの居場所のひとつになれば、孤独感を抱く子どもたちの一助になると思うのですが。今後、こういったことについて皆さんと一緒に考える機会が持てればと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

合掌

目に見えないお慈悲

一念寺　保田正信

「見えぬけれどもあるんだよ　見えぬものでもあるんだよ」

こちらは金子みすゞさんの「星とたんぽぽ」という詩の言葉です。私たちは目に見えることを重視し、反対に見えないものを軽視しがちです。でも、実は深いところにあるものは簡単に見えるものではありません。

ある方が教えてくれたお話を紹介します。その方は中学生の頃、毎日学校でお弁当箱を開けることが嫌で仕方なかったのだそうです。友達たちのお弁当は色とりどりで綺麗で華やかだったのに、自分のお弁当はいつも形が悪く、特に卵焼きは崩れてしまっていました。そのお弁当を友達に見られるのが恥ずかしかったのです。

「私のお母さんも、可愛いお弁当を作ってくれたら良いのに・・・」と、いつも不満を抱えていました。

ある時、ちょっとした言い争いから母娘喧嘩になり、ついつい、いつも感じていたお弁当への不満をお母さんにぶつけてしまいました。お母さんはそれを聞くと悲しそうな顔をして「可愛いお弁当を作ってあげられなくてごめんね」と言いました。

喧嘩の後、お父さんがその人を呼びつけて教えてくれました。実は、お母さんは指が動きにくくなったり、震えてしまう病気にかかっていたのです。

それでも、小さい頃から娘の大好物だった卵焼きを焼いてお弁当に入れて持たせてくれていたのです。その方は『そんなお母さんの気持ちも知らずに、自分は酷いことを言ってしまった』と、とても後悔し、見た目に捉われていたことを恥じました。そして同時に、目に見えないところにあった母の愛に感謝したのでした。

年月が経ち、その方自身もまた母親になりました。我が子にお弁当を作りながら、母の苦労と愛情が詰まった形の悪い卵焼きを思い出し、不意に涙がポロポロと溢れました。母の心は目に見えませんが、確かにそのお弁当の中に詰まっていたのです。

仏さまの心もまた目には見えません。南無阿弥陀仏という念仏も、はじめは「本当にこんなことだけで良いのか？」と心細く思えるかもしれません。しかし、仏教の教えを聞くことを重ねるうちに、次第に奥に秘められたありがたさに気付かされていくのです。お弁当に母の愛が詰まっていたように、南無阿弥陀仏には仏さまのお慈悲が詰まっているのです。

【聖典のことば】

煩悩にまなこさへられて
摂取の光明みざれども
大悲ものうきことなくて
つねにわが身をてらすなり

「高僧和讃」『註釈版聖典』五九五頁

数と経典

萩之庄・西教寺　住職　藤井　弦

数の単位について考えてみましょう。

中国では数の数え方として万の桁までは1桁（十倍）ごとに一、十、百、千と名前がつけられ、万以上の位については4桁（一万倍）ごとに名前を付けていきます。この方法は極めて合理的な数の表し方です。

だから数を区切るときのカンマは4桁ごとに振っていくのが理想的なのです。英語では万を表す単語がなく1000 の何倍という表現をするので、数を読むときはかけ算の知識が必要になってきます。千の上の単位はmillion（百万）で3桁（千倍）ずつ名前が付けられているので、今の時代3桁ずつカンマを振るのはここに理由があります。合理性からいうと中国の数え方にはかないませんが3桁ずつ振っていく西洋流が一般的になっています。

さて大きい数字を表すときの単位の名称は仏教用語が出典であるとされています。私たちの所依の経典である浄土三部経（無量寿経、観無量寿経、阿弥陀経）の中にもこれらの名称が引用されています。

恒河沙は1のあとに0が52個、すわなち53桁の大きな数です。

さらに、阿僧祇、那由他、不可思議について調べてみます。

・**恒河沙**　ガンジス川の砂の数の意味。

恒河沙数諸仏(ごうがしゃしゅしょぶつ)

→阿弥陀経に6件

恒河沙由旬(ごうがしゃゆじゅん)

→観無量寿経、由旬とはインドの距離の単位

1由旬＝60Km ともいわれる。

・**阿僧祇**　数えることが出来ないという意味。

阿僧祇那由他劫(あそうぎなゆたこう)

→無量寿経、劫とは時間の単位で

きわめて長い時間のことをさす。

・**那由他**　インドの数量の単位で

非常に大きな数を意味する。

百千億那由他(ひゃくせんおくなゆた)

→無量寿経に10件、観経にも

類似表現が2件ある。

・**不可思議**　人の認識・理解を越えているさま（不思議）。

仏の智慧・神通力の形容に使われる。

無量寿経に7件、南無不可思議光→正信偈、

不可思議功徳→阿弥陀経だけでも6件出てくる。

単位	読み	1の後の0の数
一	いち	0
十	じゅう	1
百	ひゃく	2
千	せん	3
万	まん	4
億	おく	8
兆	ちょう	12
京	けい	16
垓	がい	20
秭	じょ	24
穣	じょう	28
溝	こう	32
澗	かん	36
正	せい	40
載	さい	44
極	ごく	48
恒河沙	ごうがしゃ	52
阿僧祇	あそうぎ	56
那由他	なゆた	60
不可思議	ふかしぎ	64
無量大数	むりょうたいすう	68

数と経典についての講釈はこれぐらいにして

現実の問題として非常に大きな数について考えてみます。

「ジョーカーを除いたトランプ52枚を縦4枚×横13枚の長方形に並べる並べ方」は何通りあるでしょうか。

式で書けば

52×51×50×・・・・×3×2×1=52!

(数学では52の階乗と読みます)　通りあります。

これを計算すると、とんでもない数になります。

68桁の数なので4桁ずつ区切ります。

52!=8065,8175,1709,4387,8571,6606,3685,6403,7669,7528,9505,4408,8327,7824,0000,0000,0000

8065 不可思議 8175 那由他 1709 阿僧祇 4387 恒河沙 8571 極 6606 載 3685 正 6403 澗 7669 溝 7528 穣 9505・ 4408 垓 8327 京 7824 兆と読めます。

現実には使うことのない数ですが自然科学の世界では指数で表記することによって数の名称を知らなくても極めて大きい数でも小さい数でも表すことができるようにしています。

52! は、おおよそ 8.065×10^{67} と表記します。

指数は0の個数です。最初の4桁以下の数は誤差の範囲としてとらえます。

＜参考文献＞　浄土真宗聖典(CD-ROM版)

https://image.itmedia.co.jp/l/im/nl/articles/1709/11/l_qk_numbers-1.jpg

仏教婦人会より

仏教婦人会　副会長　市川節子

三年に一度の物故者追悼法要はコロナ禍緊急事態宣言が発出されたため延期し、令和四年六月に勤修いたします。

前回と同様に音楽法要にてお勤め出来る様に讃歌コーラスとハンドベルの練習を再開いたしました。

また、大阪教区よりコロナ禍でもできる活動として、手作り雑巾の作成依頼がありました。各福祉施設に届けたり、自然災害が発生した場合の支援物資として活用されます。私達仏教婦人会も今年の活動の一つとして取り組んでいきたいと思います。

島上南組仏教婦人会が一枚でも多くの雑巾を作成できますよう、皆様方のあたたかいご協力をお願いいたします。

寺族婦人会より

梶原・西法寺　内海洋子

昨年からのコロナ禍でほとんどの行事が縮小、行うことが出来ない状態が続いていました。最近はコロナ感染者数も減って、このたび寺族の研修会（勉強会）を12月6日、円正寺様で開催に至りました。

ご講師は一念寺、保田正信師で、「親鸞聖人の聖徳太子観」について研修しました。

今年の春、西本願寺では聖徳太子千四百回忌法要が勤修されました。身近にいらっしゃる聖徳太子、私達のお寺の本堂の余間に掛け軸があります。聖徳太子のお話、そして聖徳太子が自分の人生の救いを導いて下さる存在として敬い、大切にされた親鸞聖人のお話を一時間程度にまとめて分かりやすくお話頂きました。坊守様方も熱心に耳を傾けておられました。

今の状況下、改めて念仏の生活、人とのご縁を大切にし、以前のような日常に戻れるよう心から願っております。